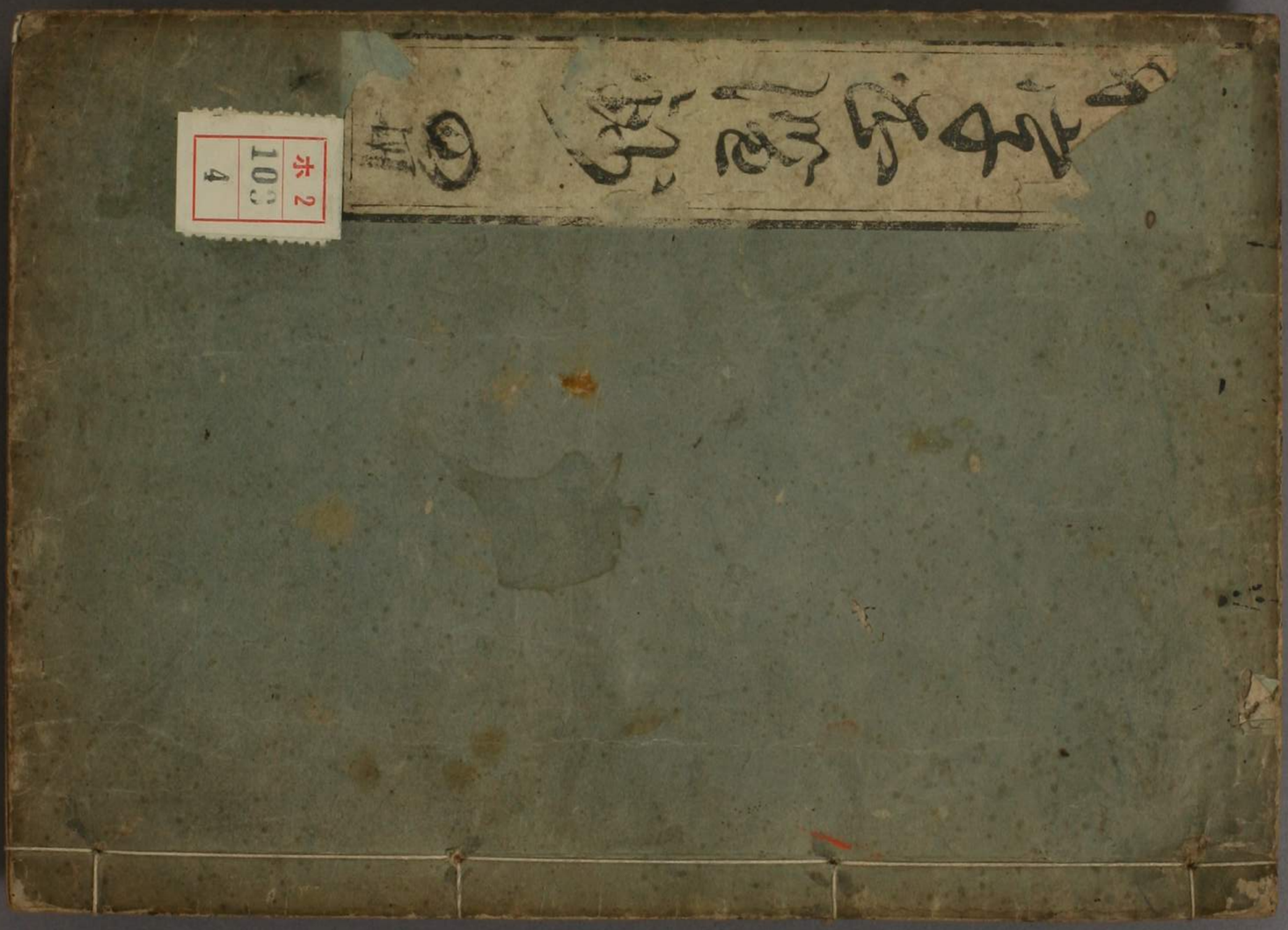
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



和字正濫鈔巻四

門 刺2
號 103
巻 4

い　叡要曳衣愛　音兄得　訓等

江　え　　柄　い

吉　い　　得　い　うとえたるくハあい
ういたるの通ひなり

荏　い　和名　　胞　え　俗名未考俗よ
ハえなるといひ

纓　い　和名於盈切　俗云燕尾　　緣　えん　音をかくい
ひ余泉切

烏帽子 えぼし

依智 えち 和名抄に国郡名 周智郡郷名

いと

いとり

痞 いのり 和名

肢 いた 四肢

役 えだち

愛知 えち 和名近江国郡名

領 えり 俗名未考 元物よ衣く

○ 未考 えり 俗名未考 捕魚具

枝 いた

英太 えだ 和名加賀国加賀郡郷名

夷 えび 未考 俗名未考

桟 えだり 和名

悅哉 えつさい 悅余拙切

○ 未考 えなぬ かむろん

よいつるとは きんよりあるとふりあり。

名文字を初ハかくんあるべし

擇 えらふ 芳野好忠集に深吹乃きのえをりし

ふゑのえらえれやなとと

よまれしをもて作るとす

きのえらひてとよらしのえを

蘆藿 えつり 日本紀

燕尾 えむび 燕於見切

怨 えんす 怨於願切

顙娃 にの 和名薩摩国郡名

兄國 にくよ 和名伊勢国仮野郡にて名

板 にのき 和名

疫 えやみ 和名えハ疫の音にて疫病(エヤミ)元

疱 えやみ わハやみ

龍膽 えやみくさ 和名

けまよえやみをいやしとあるよ名付元ところとう

くんれをとんたうつとなりいくり

朽 えふり 和名柄振(エフリ)元柄振かよ

閻浮身 えふのみ 唐一説

閻余 石切

長子 にこ 日本紀見子にて子の中乃見ところ

蝦夷 えぞ 日本紀蝦ハ日本紀ハ鰕に通して又

ぜとも毛おひ類ありて鰕のやうよ

ゆゑ人なれをひとみ同韵にて通してえぞといい

ふれんびさしいふを男ふつ。ハいまぐさをけ子

蒲萄 えびひ 紫葛ハ和名にえびひ蒲

萄のかつハけふとり仰れハいくり

鰕 えび

鱆 えびひ 和名長喙子の山本紀よ

いさゝをハ尾にいとさけをハくゝかれるえ

ひの一名ぬまちゝこしに伊ようて又出ゝ

つなぐゝいまゝ考ひず。けぬ魚乃名よけありてを

よ毒ありぬ。けをつ。ぬるゝ佐ゝいくり

裏衣香 えひかう 裏於業反和名抄云衣比にハ裏被香とかくり俗云衣比
とあるよ
ハけつり

簿 えひ〳〵 養蠶具 和名

夷 えひす

たむ 和名

決明 えひすくさ 和名

房 左傳 えひ〳〵 箭室

長女 えひめ 日本紀 兄姫也

地榆 えひす孫 又あやめ

芍藥 いひさくさ 和名

昆布 えひすめ 和名 又

ハひろめとしぞんでよりゐてひろ
きめなれハけみるつのあり

○ よ名 未考 えせ何 十二

中下のに

嘶 いとゝん 和名抄以波由とあり ゆゑとえと通す。
いとゝいとゝふと出へ〳〵すゑ志の韵と
とよ通をよゑいるくくとしいふ馬ハ伊の音を出して呼
ばなれハ系系ゑ馬聲とかきて伊と義訓せり 伊
ゑハいとゝハ伊と呼てとゝえあるゑ元ゑとゝとゐと通
ゑれて伊 ホエ 吠のゑ元いふ呼ハ伊 ノ 乃呼元波ゑをつゑの

ろくなべといふて
ねとのと通せり
の法似ろねのそれなれと大角のと
いふ荏に似て荏をねと大荏なり

香菜 いぬに 和名おほよろて和俗

愈 いに いやすいゆとそらく
ろくになるす初し

花宴 それのえん 宴於見切 大角 はろのふえ 和名

鮠 はえ 和名早きぬなれいやを
えよ通ってい

蕓 そし 日本紀本草 煮 いろえ 未考俗よにゆ
のそゆろり ろよやよといふ

あるよ
如此
訓八号
保由

鶏 ぬに 古事記万葉和名

荊麻 かうえ 和名韓荏の
えるるへし

吠 ほえ 犬の吠なり。牛ハ吼。狼ハ嗥。

千枝 ちえ 六帖に佐太杜
の樹よしあり

○ 未名 未考 ぬくらす 古事記

鴨柄 かもえ 和名俗鴨兵衛
いふて俗也

聳 そびえ そびゆそびや
うすしぬす

費 ついえ たいゆ
たいやす

潰 ちえ つゆたやすとの費もは潰のえもと於
ぶしくれぶついえといふて古俗也

埋　ねえ　未考。但ねやすといふこと　らくなよえを男

轅　ながえ　和名長柄(エ)なり　荊　なまえのき　和名

萎　なえ　なやす　万葉になゆ　癱臥　なえふせり　日本

紀なえとし　蘇　のえ　和名野荏(ノエ)なり。野を

しし

のえと　吭　のむとふえ　和名喉笛(ノムトフエ)

ふめつと

のこと也。喉ハ呑門(ノムト)の義なるへし。吭の脉にあたりて又呑と

吐とに随ふて笛の穴の指に随ふに似てなまよくのなり

を出すに似たれば

たとへていふなれ　小角　くだのふえ　和名

○　和名　くえ　一万葉よくやすく

未考　ゆとりくさ

笛　ふえ　日本紀和名。吹(フ)て声を出すものなれハ

吹吉(フエ)の意也。又日本紀に可愛をえとよめり。

おもしろきものなれ

と吹可(フ)愛(エ)の意なるや　越　こえ　こゆ

肥　こえ　こゆ　○　和名　こほ

にいひ　未考　地をこやすものなれハ初

あやり　竹刀　あをとりえ　日本紀　和名

跨　あつとこし　はゞ字岩ハ[illegible]
く距ゝ[illegible]ハあつとこいらく溝なゝを
まゝくりこゆる[illegible]ゝ句[illegible]の[illegible]よてハあつとこ
ゆといふへし。あつとこ[illegible]ハ[illegible]ゝす

○ 玉石考　あえ　万葉楷[illegible]ゝあゆゝ実ハゝ[illegible]ゝ
未考　ゝゝ[illegible]ゝ血をあやまなゝいゝと
はゝゝゝ
けゝる[illegible]

肖物　あえりの　日本紀
天皇紀ゝ肖をあえゝゝ[illegible]ハあやゝゝなゝ肖此云阿[illegible]
ゝ自注あり。[illegible]集[illegible]氏[illegible]ゝ[illegible]
いゝる。あやゝゝりの
ゝ信ゝいゝ[illegible]

才　さえ　左以の音をか
くいゝゝ雙六

のさいを万葉ゝはゝゝいゝゝ[illegible]。
さゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝて[illegible]
酒　さえ　さゆ天武紀ゝ潔を岩ゝハいさきゝ
ゝゝむをかゝ距一万葉ゝハ清の字を
はやゝゝあゝさゆゝ
ゝはくゝゝゝなゝ

左佐良掇壯子　さゝ
らえをゝゝ　万葉第六ゝ月の別名ゝいゝゝ。ゝまハ
月十六ゝ夫なゝやゝらゝゝゝ[illegible]
なゝゝ天ゝあゝ月ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
き男ゝいゝゝ。月ハ陰精なれゝゝ[illegible]ハ男神にゝく
陽なゝ。日ハ陽精なれゝゝ[illegible]ハ女神ゝゝく陰ゝ陽
の[illegible]ゝ似ゝゝ。釋日本紀ゝ[illegible]ゝを問答ゝて

知るべしいつり。密教に本有の理日八常住にして修生
の智月と時よ明昧あり。智の内昧によりて凡聖乃階位
あり。世の月乃盈缺を見て大小を定め月を積て遂よ年
をなすごとし。理八諸なれ八信よ邪。智八新けく
陽よ邪す。左のよ八陽なるもとく右乃よ八信なり。てかつりてよく新くり。大日乃苦
迹なるあるよおの

つくりぶつり

榮螺子　さざえ　和名

甲　きのえ　木ノエなり。乙は木弟

なり。丙丁ものこれよ消

ものつくるよりをつくるべし

消　きえ　きゆきやすしとけけけけぬ八くるん

いふ　なりいつて幾要切氣なるなるようめて

なり　志江切　世なる

あるよ信よせる

ぐるいつり

宛　もえたく

蘖　ひこえ　和名孫蘖のこと

輝　ひえ　万葉和名

冷　ひえ　ひゆひやすい和名よ冷酷のよ

こひいすゆりりとあり。ひ〜〜えを通よるる才の字の

下よいつりこ〜〜ひやすハ冷の一字をよむ時こえハ

令冷なり。

鴨　ひえとり　和名信よひよ

此れ准く

とりとりいふはやの下にてうしえとよりて
五音通をり。蘿る乃ゑとも。嶺る乃ゑ

飛簷　ひえむ　和名

懐風藻には神叡山かくれ藤原贈太政大臣武智麻呂近
江守にて於はしまして。ひ山に寺をたてしとも
ゆゆしく零落せるよりこれで。延暦寺は再興は
なり。住ゑをすみのくとよめるよりて案もれん
日ゑはらえまして比叡はもるひ。ひえいさん
といふは和名をやて音とせるり。なるゆゆしとかうやと
いふたくひはおれ〳〵す肥前肥後のりしは火国
なるを火炎なるを忘ゆるてよや。肥の字を用て和名

比叡山　ひえのやま

を音とてふよくをやとおもて後とりよりて用
うれがとしてはは大比叡弥社は尾と同神乃御弥よ
て大山嶺弥なり。舊事本紀等よりて紀よりて延喜
式にし教をとれ。二代実録よ正一位を授けまとたまの
ろとこれなりは比叡弥
社は弥乃ゆあ弥なり

諸兄　もろえ　井手左大臣

萠　りえ　もゆりやすは方言ふに毛伊とまめ
り。冷の字乃ゆりよりこと
もゆりやすは火のもゆりを　きまは乃りく
もりしはいきりひおゆれとりとはいと

燃　もえ

け言な
ろへ

燼　もえくひ　和名燃杭
のえろ

蒴黄　もえぎ　春木のわし出る時きゝ黄乃ふくろの
きをかぶれハそれよりかるかるよ
付り
るろ
もさきよいふ河
えハ枝なり

楚　すはえ　和名すゝ
俗よ細く

酸　もゝゆ

忘　衛回會

餌　忘　和名弁
次乳糸

含　忘　箭含笄胡
外切吳音

繪　忘　胡擔切此吳音を
もて和名とする

詠　忘い　為令
切

榮華　忘いくさ　榮爲
明切

槐　忘にず　和名

屠兒　忘とり　和名餌取のことなり屠牛馬肉取鷹
雞餌を義也殺生及屠牛馬肉取賣者
也とにのれて俗よ穢多とかうてもとゝふたゝりと此忘
とわるゝことなまりて。俗よ俗字を作まるるべ
し。又世よるゝしといふもとゝハ類さて
こ紀りこれ。わるよまれてこゝなり

犬　もゝれ　和名犬のこゝをもゝよもゝの
ことゝふ。われよ叶へり

猶尾草　忘ぬのこゝ　和名

穿 ゑぐる 佛足石贊このみわ
名鈔かゝゑぐる

餌香市 ゑのいち 顯宗紀 播磨

紀の内國
志紀郡
なり越于
厥切ゑつ
よ欽ゑをし同一く弦す。假名ハ万
なるよ惠良惠良とよめるられるう

笑 ゑむ 附咲狀ゑまし
万なるよあり

咲顔 ゑがほ 俗ゑゝ
ゑゑるう

衛我河 ゑのかゝ 日本紀

越蘇 ゑそ 和名抄ハ國
佚ゑ郡穴名

嘘樂 ゑゝらく 三名ハ
日本紀

鏬 文選 ゑむ 栗石榴なし
笑八字よりこの月

垣下座 ゑんりのさ 源氏あ代にあり。垣、島煩切音ゑん。煩を呉音よりゝそうせハ音
ゑんとゝゑむをゑんよるゑれへしを

圓座 ゑんさ 圓爲井拳切

惠具 ゑぐ 万葉
野菜

蠻 ゑぐゝは 和名咲窪
のゝるゑう

酸 ゑぐ 和名苦子
のトよを

酔 ゑふ 古事
記等

女蔵薤 ゑみらゝ あま

なゝ
和名

衛士 ゑゝ 衛韋井
穢切

中下のる

礎 いしすゑ つちいしとも。和名。
砥礪のこと なり

法華經 ほくちきやう 源氏おゆ流布のなほ
くえとかくり。拾遺
非代紀よる 蘆散を用て此云俱穢鑁羅く箇須とあり。
蘆ハ岸ハけとよめり。華と蘆ト音訓異なれとけをく
もといそむ。久江久惠とかくるべしよ。今日本
紀を從て久惠よさるもの。ほけきやうと出へ
きをかくるに出ハ二字假名にてかくるあり。久
惠切えけなり。きの假名よくいとかくれあり。久以切

幾なり。字よりうとも。韻字あり人よ物あへし。識
の字あをけるをハいすへいくるるといひてそこと
てみくくをけくとハ
ほよいしるせるる
ふくしくり。假名ハちくよりあり。俗
よ巴の字をとものとしよるむるま考

麻殖 ちくる 和名何波 國郡名

鹿杖 かせつる 和名

鞆繪 とも ちの名江次第に

鋸 かくもり 和名曳 雕の字

吉哉 よしもや

和漢芸よ万葉。又よしよ泥の字をかくるおほし。
日本紀よ妨哉をあなよるやとよめるる古事記よハ

あるよやーとあれハ古事記よりハ日本紀のちの字
ハ肋代なり日本紀よりハ古事記の一の字まゝ肋
ゆゑ正字ハあるよやなり　ちゝ代ハ清ゝふるよりちゝ
やーしちーのふくりーハ肋代ゆゑ清ハよりやゝ
正字ハ縦哉なり　そ瓦ハ万葉ハ不欲をよりしいか
しゝあるハ不欲をよりしゝあるを
ゆてまくしゝをいかゆてよりしゝ思ねどかりよ
ゆゝーてよりーといふをりハ俗ハ考よいふとそゝ
ろかくの
ゝ

手子　たかもゝ　遊仙

蜜又弥代紀ハ手端とかゝくりハ
のゝなりなハ文通ゝてのなり

机　つくゝ

和名木器類唐韵云机案屬也史記云持案進食日本紀ハ百机飲食をとりしゝりのつくゝ
ものゝよりハ和名文書具に書案ハ別ハ出さりぬまハ
ハ飲食具なるゝを今ハひとくゝよ
書案をものゝつく
ちゝいふゝ思へり

杖　つゝ

万葉和名ぬつえ
とかくへり寸

殖　うゝ

日本紀古事記万葉和名ぬ一同なり万葉
第十ハよ宇留ハいへり宇留とうゝ
わけトよりてハ通ゝわぬ
ゝうゝしかくハ俗ゝ
ゝうゝ

飢　うゝ

推古紀聖徳太子の御ハよりわり殖
に例ゝれゝ句のゝゝろよりてハうゝと

いつへしうゆ
とかくへうす

蹙散 くるいらかす 日本紀

梢 こすゑ 末 コエ

赤卒 あらゑもの 和名

佽名共
日本紀
名保氏よあゑらけと
いつる何し日しきゑ

黄精 ねかちみ やまゐも
くわ

聲 こゑ こゑたるとわ
の下にて通ず

書案 ふみつくゑ 和名

妍哉 あなよゐや 玄名

平安 あるら 和名侯伺
津名郡に

胡黎 きるむし 和名

故 ゆゑ 万葉よおほ
とかくハ張素れ
古事紀ようあうゆへ
ゆへ

四惠也 ゑゑや 万葉ふゑ
や

失聲 ひこゑ ひくこゑ
のこゑ

假髪 すゑ 髪飾

未 ゑ

居 すゑ 万葉集に集殖を宇惠宇
須宇と云へしすへと云へ

園淮 すゑ 和名上総
国郡名

ゐすゑゆと
いつへうす

陶者 すゑものつくり

和名居物（スエ）
依なり

中下のへ 附 にるまゝふへきを出す

古 いゝへ

家 いへ 万葉和名抄ともかくへうす

鴿 いへとり

兎葵 いへまれ

芋 いへたいも

出俗 いへで 日本紀

牲 いもへ

蠅 はへ

白拂 はへらひ 和名蠅拂なり

蠅虎 はへとり 和名蠅取

なり。蠅をよくとる小蜘蛛なり。蠅虎とは虎の能獸を捕（ハヒ）

よけ〳〵名付なり。鵄（ソビ）を魚虎といふこと同類の能

鳥を捉（ハヒ）あり雎鳩を魚鷹と名

付るしまるけるなり

胆 きへのこ 和名蠅子なり

膚 はだへ 皮（ハダ）方のきなり

被 きへ

攘 きへぎ 和名

被 きへつりの 日本紀

苞苴 にへ 日本紀。贄同。和名抄ハ

あゝまもりぬ宮仕ひさに鋼のあゝまたとかろ
ハ今の俗つゝよりてむゝいつゝり似ゝり

甚多 ひへさ 日本紀 古語

方 へ 万葉かなゝへゝなゝへなゝいふへ

ちりぬるをわかよたれそつねならむ音を用ゐる正
しきへし。山をゝるゝの所ちりぬるをわかよたれそつねならむ

重 へ 一方二方号ぺハへつゝゝいつゝ向ぺ。ゝれゝ
よりて号ぺハ隔派ちゝかゝゝり平氏ら
太子伝暦ゝ平群乃山を重栗山しかゝゝを今の本ゝ
ちけらりのやまゝ悲ゝハ倡ちゝよけちゝ乃所ら
ゝいつゝハ日本紀ゝ京行天皇日向國哭湯所にてゝ
ゝ世たまへる思邦乃所ゝ欲の末乃ゆゝゝり古事記ゝハ日

本武尊の所ゝ平氏
しわゝハ初ゝさりけるゝ

鎮 ちゝへ 日本紀并万葉のゝ

ちゝへゝゝゝゝ長の字をゝゝゝ
ちゝへゝゝゝゝ常な
りゝハやすめ字なゝゝゝ

肌 かゝへ ゝゝへゝ
いゝゝ同

捷 かへ 和名抄ゝハかやゝいゝ和名ゝハ出さゝ通す
ゝるやゝ初ゝゝ。神代紀ゝ松栢をゝまつゝや
ゝ悲ゝゝ和名云本草云柏實柏音百一名捷子捷音匪邪名加倍ゝ
ゝにゝれハ松栢の栢ゝゝゝゝゝ捷ゝゝゝゝゝ
草綱目を考ゝゝハ別なゝゝ似ゝ
ゝ所ゝ実ゝ同名を付ゝゝ

擲倒 かへりうち 和名 賽 かへりまうし

歸 かへる 蛙 かへる 中勢ふ集よかへるる蛙よ

つくてよりかへるるをもてよ蟄(ヒソ)りる虫ハいつまて同一中よ蛙ハ冬よ春よなりてむくめき出るハ魂のかへるやうなれハ還(カヘ)るもてるよ名付るる也字かたつしるあり河津と万葉ふよおほくかへりあちをあやまりいふよそれよかつくを業とする者をあやまりふこ〳〵門を所とすむ虫なれと助詞をそてはをといつりの和名まかへるとのこ出てこれハかへるハなを名かそりハ実名なるをあやまりかへるとあるまれなり

鰒 うつる 卵 鴨 かへる 鳥

鹿蒜 かへる 和名越前国敦賀郡に名ゆよかへる山と

りるといふへきをとかへるとハいふるわ神名帳よ同郡よ加比留神社又鹿蒜(カヒル)田口神社あれハかりるとしいよれ和名よかへるでのまをとかりるでのまとある例よ同一京の紀よ日女武尊伝説より美濃へ出るをふとて大山乃坂を越とまふ附おとものきこ〳〵めくるよ山神白きを鹿(カセキ)となりて神おとたてりくるよ蒜(ヒル)をとて鹿てりきかけ〳〵まひくれハ月よあるりてたふれぬれまわさきけ〳〵山を越るとものおほく神の生(イキ)まにかへるり

て炙りくらふべし附けすりほ蒜をかみて人及び牛馬の
塗れはおのづから弗の毒よあらはすといふ。かくる
山より弗あり。てそまよあらわりくらをぴ伝洗はのす
よるらいてそほけぬを付くるや

栢　かへのき

和名

又鷄頭樹とかきてかいろでのきしあり。そまの
うちもとりぐさ。ぐさうとして。雞冠（とりかさ）より似れふるり
の名おなじ。万葉よハ蝦夷しかきてかるでとあり。
そ系蛙のまより似れかくいふり。かくてくるの字を
略せりがりでハ通ていふり。連句の歌より
の字より二句さるしまんのまを思ふるなるう

鷄冠木　かへてのき

和名

傍　かへ　附方なり

釜　かまへ　まるかまへ附鼎あり

轉筋　かへするつり

和名

俗よハこむかりといふぷよなるのふとちられさ
るやうるるをかへすまへといふるりを
いひくるる乳癤の俗ハるしるゆなれと駭（ムカデ）土蜂より
ハなへうすぷよるへくといふちありそれと同きた

鮇　ふかる

日本紀よ黄系をすつくるとよ
めり。万系よハふくとと酉やりぷも
とくみるるをすりみへ
ろハよくぐちよりゆるなり

堪 たへ たふとくうくり。公任をきんくふ。長能を
あつたふ。恪任と。恪能とつてきて今の
たふよ
同

妙 たへなり 白妙打妙
多れなり

譬 たとへ たとふを祢よりつり。能名よへくとしいと
しいつり。能使をたとへとひといふよたとへ
しき同じ。よりてたとへ
をたとへだとしいつり 相叔 たへ 和名叔以拳加
又也とあれそんをおもするなり。
俗よりのこふ。といつるなり
苗 なへ 苗代の時なへ 並 なへよ 万葉古今
いつめこの通なり 多の用

蹇 なへく 和名あしなへ。とこの指節のトまいい
つるやうよ足痿よハあ〜す。説文を引
て蹇行不正也とあれハよろがよやくなるをなへくと
いふなり。史記呉太伯世家云公子光詳爲足疾入于窟室。
左傳云光偽足疾ナヘ力系にハ
足痛をあるへくとあり

上 うへ 捕魚具 和名 釜 うへ

袍 うへのきぬ 衣外也 和名 表 うへ

守瓜 うりうへ 和名瓜蠅なり。黄なる甲の下よ羽あ
りてあをなり。ふたの守の字ハ 打延而 うちはへて 万葉

アてさゝ
れうなり

訴 うゝへ

鑿饗 くはへ 和名紀前下注郡名饗の字あくとゝめハけと略なり

及轉 くるへき 第系和名蠶絲具なりペとめと通ゝられハくるめくゆるの名なり

訓覓 くるへき 和名安蕓四るゝ郡名

覆 くゝる 人のたゝるゝ時下なる皆乃よなれとかくハいふも

屋遊 やのゝらけ 和名ペハ
ゝなり

山直 やまぶゝ 和名和泉四和泉郡名。四ゝやまぶひといふ

前 まへ

上臣 まへつきみ 日本紀

事竟而 ゝゝをへて 万系

意氣 ちゝろゝ 日本紀

者 てゝり 何ゝといふ河なり。登以切知なるなよちゝりといふへきをもちゝと

てゝと二四れ通ゝてかくハいふなり。ぶ業ゝハ衣なすて

ふるゝいふてふをちふふゝしゝめりでふゝといふ

といふ何なり。ぶゝへて初ゝへゝ。はてゝりハ句のトゝ

つゝさて句絶の辭なるを。今ハ次の句乃初ゝあハてゝへ

きばしよむるおをつるる。也の字をなりとよむし。成の字なりしのれよあゝす。げるりハいくよありと
いつへきをに阿切奈なるあよつめていふをなり。也ハ
決をるをなれば。何くよありといふるまよ。おつ
ゝけふあよもよなりとよむ字なりと思つり。
万葉等の假名の古き書ハけ字をなりと用ふるす
る。但良峯朝臣經也（ツネナリ）といふ人の名ハけ字を用ふり。
その比まりよく今いふゝをを考ふゝをさり
ふるまや古今集よ假名よ古ゝれと三代実録よあま
と不ゝふ。ふ誤て經世とかふるるをあるハかるり
まつるるり者乃字ゝをゝりてつりとよむ字よ
ハあゝす。也の字よ倒をふてふへし。云乃字をてふ

ゝよむハりゝりいふとよむ字なりかゝよ假名
かゝしのるよつきて梵語乃けをいふるをもてゝをは
へし

膿　あへつくり　和名

喘息　あへき

青蝦蟇　あぜかへる　和名

敢　あへて　不敢なり

蠬　あへりの　和名

與　あゝへ　あゝふるをあゝふ
るゝハいふへゝす

蛙黽　あまかへる　和名雨ふんとてな
けて雨蛙（ヒキガエル）のゝるるり

剰 あまさへ 副 万葉 さへ 何なりと万葉に并並共等の字をも同しく用たり後撰に人のそてにくれぎりしめやかと思へしに人とよめるをも今日さへになりけりかそへとよめる
ハ入へし

囀 さへつる 和名 敏達紀に韓語
をかのさへづりと注し源氏にあまの拙ふをきゝてちかうねるとさへづりてとかたりかたるのやうの字とかれにたとへていふなりしとわかるなりねどもやうさうされるをハさへづるといふなり

道祖神 さへのかみ 和名

佐伯 さへき 佐伯ハ日本紀に
蝦夷を討しにゆきて生捕りしを播磨等の国々にわかちおかせたまへるを子孫なりけるをおかせたまへりしを佐伯と名付るなりおほし。佐伯直といふ氏ハ彼佐伯どもを領せしめむがためにおかれけり。直ハ君也と姓氏録にみへたり。けり字日本紀にいへると注しあり。あいひと注したれはさすがに三代実録に阿波国勝浦郡の百姓直乃假名に費の字を用られたるをもうまへて作へたるなりあれバいしのえハ肥前に加へらるゝよしいへと注さきへきを書にあるひとにしるされたる字なれどもあへひとゝ注せるなりまたあるひハあまるななれバ人をも佐伯へきさ仁にあるうちにまてあるひとといへるなり

来経行 きへゆく 古事記并万葉にもあり。年月の
のすぎて経ゆくるり消ゆくよ
にのよ経を字乃まくよまるもの
なけれど俗名なれい消ゆるよ
あくうため
よたてよ出す
もとかく
ハ俗なり

往方 ゆくへ 万葉よおかりゆく

後 ゆくへ 所方の
こなり

注連 ちくへなと
ありべと
め月韵

和名日本紀并一よ八端出く
縄をちくへるへと自注

偏 ひとへよ 一重の
こなり

單衣 ひとへきぬ 和名

勢京
集

人笑 ひとへ 後撰
并中

中下のわ はの音俗ままくよあるよ出す。行阿の
俗名遺よ我忘るとよありてま
くへをと出
さくへ今省く

鰯 いわし 和名

半月 はつわり 和名
よ内

典云五種不男其一曰半月俗訛云波尔和利。これハ半月
の二音をよくちかりてはつわりといふものこなり。

今案一月三十日を半月ハそ法孤男しるり半月ハ女
板とるものをかく名付まハ波尓ハ半の音丹波をた
ゝそ。紙波をなゝそいふこゝ。和利ハ
割りて二月をふうつよろそこのわ刑るゝや

歴齒 はゝとれ 和名 大腸 はゝわゝ 和名股綿の義なり

百和香 はくゝかう 古今集物名

小腸 ほそわゝ 細綿の義なり ○ 玉名 未考 わゝら糸 万糸

○ 玉名 未考 わゝく 乾海撰明慧上人傳よあり。これハ
俗よりふゝやくゝるり。誕惑の音を

和俗のやうま
いひなせるなり
衣のゆれて。あ松るとゝんつけ
ゝゝんやうるをいひ
ゝ人のゝくゝ人のゝ
ゝやうるをいひてゝ
ゝわ乃
和俗なり

○ 玉名 未考 わゝけ 糸つゝ糸 これハ

上神 かんつゝと 和名和泉國大鳥郡郷名なり。三
海ハ此國を作りるゝ。まのて。
國ハ神の中まて。大神まて。ます。天神をゝ
ゝゝゝめ。今上の字あるなり大の神を略ゝり。延
喜式よ大る郡よ此國神社ゝて鍬(スキ)鞍(ユキ)奉らるハ此
神なり。今ハ此和をまわゝいふ。殘ゝき者の片なり。

河曲 かはわ 和名伊勢國郡名

同郡ノ和田ありぞこれハわらはにきるとあるをこんうへ
てみきるといとりいつきし同韵ノて通ぜざるもあず

結菓 かくのあと　和名ノかくあり江次第ノ加久縄
とかれるとなれいとをとかるるるりた今案の毛紡ノ
かくるそノ思ひられてしまるし江次第の定なり保
乃佩名万葉ノ和名ノあわなれしノ万葉第二ノ
は安幡とかきれ月韵相通ず走の字はしるし
をわるとしるりれ
らノ浪へて知へし　○ 未名 たわ　万葉ノ
俵 たわら　未考 なとく
未名ハ史定の一心戒文ノ
延喜式ノあり佩名ハ未考

撓 たわむ　手弱女 たわやめ
たをやめ　蕤藤衝 うりかつら　和名
ノ川

宇和 うわ　和名伊豫国郡名　浦廻 うらわ　万葉ノうらわ
去へうらすみ万葉ノ礒回島回限回里回裾回なとノあり。
ヨハめくるるといふんノよりり。又浦箕とノあるハ
のふちハまぐりれハわといふノよれる。又丸の字を
ヨとノあるも丸さ和名ノめくれハなり。車痛をと
といふより初めて。海川のほとりの和名へミの蟠かま
るといふるとひまて。皆ハ廻の字をとノとるむる河

アヒのほ曲のむの字
もまもとれなり

暴風　のわきのかせ　元の

野ゐもとよハ野ゐもとかれて秋のあしけ。それのちくさよ
ゆゑもとれてれりろきけ。ゆをあ〳〵く吹わるゑと
元。わろなよみもやちもあるわりゆ字のゑと秋よりろ〳〵き
よあ〳〵ねも。揺をもて別ゑ。ゆへ〳〵。和名
よ霞雨小雨也。て和名をゑ久礼といわり。小雨をいつ
にゆ〳〵ぬゑ。ゆゑれといらゑれぞ。ゆへ。ゆのあるて
秋のまもおかくゆあり。

萱草　わすんさう　原氏

わゆ合せて思ふへ〳〵
よゑもとざうゑゑもきれのゑ〳〵よいへるゆ。和名
云萱草、音喧。漢語抄云和須礼久佐。俗云如環藻二音。れ

けんざうといふへ。ゆゑもとゑ〳〵んざうといひ。ゆ〳〵へるゆと
なり。おほゆゑ。果觀會郭等の假名皆は萱草よゆ〳〵
ゆてゑ。ゆの字を用ゐ。ゆは
の字をかゑへ〳〵す

烏芋　くろね　和名

胃　くろわるふくろ　和名　嚢

し和名。口輪連といふゑ。ゆ。ゆ〳〵るゆ和
るれハなり。鑣ハゆ〳〵口食のんるゆへ〳〵

履屧　くつゆ

ゑくりの
しき和名

山多和　やまのたわ

古事記。多和ハ假名なり。山
のたゑ〳〵ゆ。ゆを俗よたと

といふ。これなり。ほの國豊後郡より箕輪とかきてこの
たりといふ村あり。ゆゑに山輪とかきて
やまのたりとよむへきなり。かやうのたりハおほ
くこの字なり。そこ爲八万系より舟をこぎたむしと
いふこと。こぎめぐらすといふ。ふるするを轉運するの字なり
たむとよめるを。或ハ手同とかきてたみとよめ
るも。猶あの字と同一。箕と猶と同意なるゆゑに
いつくしくなれば。手同をたゝしとよむべきなり

壁帶 まわり 和名 石炭螺 まきよと 和名

大草香皇子の御子眉輪王(マヨワノオホキミ)也。
此貝を御名とし給ひ給ひ

理 こゝわり 美濃言割のこゝなり。款断等の字
をもこゝわりとよめり。本のこ
ちめよりわりてわるこゝにこれ
をもてこゝろといふもこゝろなれ
すなわちなれ。こゝはわりと云へ
こゝわるのこゝなり 大語 こゝたり 遊仙窟よ
こゝ名あり。古作のあるもよみこれど般名ハ未考但こ
こゝよかく出すハこゝをぐこゝとかよはしてい
ゆなれば。はの字よあゝぬるゆへ。こゝと何
といてむとよばゝつれこゝれよなこゝ

氈帶 こゝきこゝ 和名 涙雪 あこゆき 日本紀古

事記并古和名にたくあるといふもおなし 但古本には
ろ書ハ安幡にかよふかれそとあれハ又若り あくほと
いひ 白塩 あらしほ 和名 いま
へし
似られハ
味塩也
澤 あふれき 和名
佐和良義 さわらき 神名帳に津州国河下郡
澤良宜村としてあるをかやうにかけハ仮名もちそへひ に佐和良義神社あり 今
てたかふへし あるにさらきといふ本あり 又字は
あしねる也 此本の名をまて 万葉六又日
ゆるとありて名付たる也 騒 さはく 本紀古事

記本にさやくといふ詞もやと
わと同韻ぬ通すてはつらくあり
○ 玉名 さはく 日本紀仁徳天皇の御字にあり
未考 但にさはくといふといふに同し
とをおへきなる 流黄 ゆのあわ 和名 に文
くゆわるへ騒く
いそく佐云由王 これハろうとうといふへきをとろとゆ
同韻なれハ通して ゆわうといふなり 万葉に所泣
をなかるとよむ へきとなかもとよめるたくひおは
きハかわに同し 今但に伊王といふをゆといふもの下
まて又ある通すれともろと
いを通せざれバ誤なり 神酒 一万葉 わ名

穴神 こわ 三脩 ちり

三膽 みのわた 和名

皺 しわ 万葉 和名

鰓魚 いこいを 和名

通ちるを 化しをす

中下のは まなかふを 略して也

背膓 せなわた 和名

御面 みれもと 万葉又面輪おもと

膝 ちつき 和名

居 すわる 未考仮借也 ゐすうし

岩 いそ

出羽 いでは

穿ゆる

すゑつ

古事

記

祝 いそみ

母 はは 下のはは伯母

ちちはつし

波婆迦 ちち 舊事 本紀

朱掘 はつり 和名又 にそさて

ちちのは婆迦りこれ丸ぞ

若しくは伯父ハ保なすり

柘 はつそ 和名又 ゆそ

貝母 はくり 和名 そ根

貝より似て毎の許より子のあつまりやうなれハ貝母といふ
和名乃之ハ毋栗(イガリ)元山里乃ものハからのごとくいとて
糊なしに押まゼて脂(アブラ)をつ　黑子　はくろて　和名佐ゝよ
くろよ能佐ゝといふ
名のごとくなきあるよわくろを始ふよ
やうくろといふ同韻まて通ぜり

菴蘆子　はくこ　和名ようなまをといふ菴音淹(エン)今(エン)
なまをる
の茎乃名よてはくこよハあるし洞用を考ふるよ菴蘆ハ化
しかくわ荊楚歳時記并よなを洞因よりわと嵐麹
なわ乃ろこにし三月三日よ搗て糕をるまといふ
堇茎嵐のごよ似ハ花ハ麹よ似ゝ花ハ麹といふ

ろくこ乃毋よなるこ
こなくこの毋よなるなり

彗星　はくきほし　箒　はくき

伯耆國　はくきのくに

○　共名　万葉集ニよほあとよて日よりのごとを
未考　ほそ　尓波ゝくこ
きくこ
きくこ
きくこ
ほそ流しなくて平坦なる庭のくくなれハたとへ
てやうて正字よ用ゐ元万葉十九よれのうへハつちゆく
くくなのうへハとくよをうごくくある考注天皇の
御製思ひ合よくくしに和しかくハ俗
名くぶらくくろ俗字よ用ゐるくくよ

庭　には　　塲　には

鶏　にはとり　　にはつとりといふも芸に庭にあそ
まて飛ぶなの名なり。津もやす
めにてなすなり。又一名をかけといふも催る楽すこしに似たる
いかけろとなくされしよりてかくがあるによりて名
付られ。家（カ）鶏（ケ）なりといふも僻るすあなり。古るす記に
八（ヤ）千（チ）矛（ホコノ）神　三勝爪神の御すに庭津鳥かけはなくとよみたせ
たまへり。神代にもろこ
しの音あしんやもそ
とよめるした
そうしくなる

俄　にはか　　ハ世ぶににはかにして

潦　にはたつみ　　和名　庭（ニハ）立（タ）水（ツミ）

水なり。立水ハ泉なれバつよくわく水ハいきほひの低
り。ハ立のはれあるなり。立水居水のるす仙覚律師の方
葉抄にあり。雨ふりて庭にたまる水乃立
水のごときもろもろしくなれるを名付く

地膽　にはつく　　和名

鸊鷉　にほとらぶり　　和名

地膚　にはくさ　　和名に又まさくさといひて和訓
またききましといふ方葉十六
并にサにも玉箒とよめる也。古事記にあれども今按じ
草をすなにハ玉箒かなにこ経麻呂とよめりぬ字
ろるす派定なり。玉ハ例のほめてよぶ名なり。
サに玉箒をとれてあわ福くかて初子のけふ乃玉くく

れとるものハ竹を結てかさねる箒なり。又日ハい
そふるすなれハ箒の苔を拂ふ〳〵多よ猶を拂ひ。
んをほろ〳〵て苔をよつくへといふるものを物よ苔〜
て結つるるろ〳〵。ちを作るよまきあるよまちうのま
といひまゆうのまるて作りるろうをし苔を用〜
ゆくよいふくしく箒よゆふるよけれハ玉箒とつけ。
玉箒よてゆつるをしえ玉箒といふるすり。中苔綱目
地膚のトよ爾雅苔を川て王箒王帚掃帚落帚獨
帚等の異名を出〜弘景曰今田野間亦多皆取莖苗
為掃帚。ちれよりて今物を作〜てんへ〜和名
よ玉箒といさざるハ中
たる例。ちよいふくしく

燎 にたくび 和名庭火なり

膠 にかわ 黄皮の義なり

贍 にきはし

鬪雞 とりあはせ 和名鷄を

るものをいふる常なり。欲合をも
此よるすへハ商欲といふる

磐石 ときハかきそ 日本紀延喜式多よハときそ
よかきそよしいふり常トコ
磐を古伊切岌なれハときそ
堅石をときそを略してかきそといふ。

裸 ちくや 和名 道速振 舊事紀 古事記 ちくやふる

日本紀万葉集等の仮名のこなしすなわちけちハ
やふる人しちやぶるもやぶるもあり万葉ハ千劔破千石
破(ヤフル)なと俗字なれとも付て古来異説あり
ぱぱハふりしぶりていふるもぱ日本紀万葉ともに布
不留の字ハ用ずしてまの字をかき又俗
字なれと彼の字を用ふりぱ委ハ別に沒く

逆鞭 ちくかく 力華の義 ○ 未考 ぬくれふす

蓴 ぬなわ 日本紀万葉沼縄の義なり沼に
つのあるへしぱ二つに沼にあり
縄のごとくなれとぬなわ二つに茎の莖に白
き滑らかなるものつきしれハ万葉に絶のなあ
らかなるをぬるとよみ茎のたくひなるぬをひろハ
ぬるくとしるあり水にぬるとらぬるぬるとらぬ
滑らかなれとぬるとハ同一義なり俗にぬまくぬ
といふ字通ふなり沼としるちわるのなめらかなれ
ぬるとなつけて
まるとハ一義なり

絶 ちぜハり

尾張國 をわりのくに 韋 をかく

童 わらわ ○ 未考 わらわ 万葉

に婆の字を用ふりぱハ同りていひ
くろなるへしぱ婆ハまろつす

禍　うきはひ　皮　かわ

蝙蝠　かはほり　和名　賢蓬　かわほり　和名

顏　かたち　和名　賣子木　かたちきの木

和名抄ニ万葉ヨリ山萵苣（チサ）ヨリ出ル　ちさ

ちさの木ニ

替　かたち　女青　かたねらき　和名

りーアヲナナ〜ハヨリテ　古今ヨ

かたらさとうめらをふる　女青しらくち

水苔　かはゝ　和名　瓦　かはら　附窯かう　ぐまの瓦

あゝかり〜疏瓦つゝかり〜牝瓦

めゞり〜牡瓦

白蒿　かり〜のたき　和名又ハ去上和名

ろうすき

菫菫　かり〜ふぐち　和名　菊　かり〜おひぐさ　和名

土器　かたゝけ　烏毛虫　かたむし　和名

河伯　かたゝのみ　和名　衛矛　かたゝまつゝら　和名

廁 かはや 和名かはやは万葉集十六ちよさまくの和歌に
ちはやぶる神の社の廁鮒もあるを川隅のくさふかきと
ありて廁を川隅とよめるは川の隅にけて作るなり
元始といふこと
和名

裘 かはごろも かはきぬと
○ 玉名未考 かはゆ

合志 かはし 肥後国郡名和名

樺 かばの 和名かばさくらと
いふこれは樺の皮を採用
とかきてかばとよめり

傍 かたはら

脇肋 かたはらほね 和名片腹骨方言傍也片腹
なるハ傍骨なるべしにてもこと
ひとつ
きるう

片羽者 かたはものの
うつくしき抽枝の葉よつてかたとなりこれ
を矢のかたの方のくねなきさしに用ゆるなれそ
ゆきよりかたといふるハ出雲風土記に矢ぐ
しかよりわるるのくねなれハ片羽なるとなるよりわれ
こそる
河元

韓柏 韓柏なるへし

革麻 かはをハ 和名

結菓 かくなる 和名江次才

胃索 かけなわ 和名取馬縄也

槲 柏同 かしわ

顱 かしらのうはうこ 和名頭瓦のこと也

夜 よる 日本紀に夜ほしと云へり夜ほをよるとしてよるおうをよはといふてこゝろはて夜ほしとかくり夜ハ訓半ハ音大きよ俗なり

齡 よはひ

遊女 たくれわめ 和名

風流士 たくれを 万葉

結婚 たくく 日本紀 万葉

輒 たくやす 古事記ハ岩ハたやす

戲 たくれ たくれ

麻く たくく 日本紀

篁 たかむら 和名たかむらを俗よかくいふとしかへ

りたかむらハ竹原なり

和名たかむらハ竹村村ハ群のこゝなる

籜 たかんなのうハかは

偉 たくり 日本紀俗よ弥のい

ちくやをたくりといふこ崇の

字よりたくりといふるへし

委 たくはへる 所ゝ疊なり 蓄 たくはふ

酣 たけなは 籜 たけのかは

岨 そは 志名假名芸未考。和名に出さず。俗説に管にて物のまかるゝこそとよめり

片そはとも云 蘓甲 そかう 和名伯法國山田郡に名

都波 つは 出雲國風土記。出雲郡に つはとらすまかし

擇食 つまえり 和名つまゑりとハ者の末また口ふハ衝張ツハル まやうわきを女のつまゑりに和名にか

くかへのつくるハ字本のよしと聞しくてあちはひの

ときわたすとえらひ出てゐのともとなるなし

兵 つはもの 兵器をもつはものといひ。兵器をとれ者をもいふ。名付との意常のたく

はへなり

庫 つはものくら 兵器を納むる倉なり

都賀 つか 和名石見國邑知郡に名

革 つくりかは 和名ほとはしのなり

繩 なは 通すれハ也 和名繩手の義なり

暇 ちかひて

鯆　なてさば　名　苗代　なハーろ　かへ
しろを通
ていとり　蜚蟬　ちいせて　和名
上國　うそつくよ　日本紀　後妻　うはなり　和名
上天　うそのそら　遊仙窟　褶　うハて　和名
鞍褥　うりき　和名抄　しきの俗
團扇　うちわ　和名云なし朝式云齋王行具翳十二枚翳音於計反和名波比翳を延喜式

よハさしてと距をり。或云ハ刺翳とかくり。方言ハ
十ちよ天ろ指羽のうちあるよ二上山の鷲をしようむと
よめり。鷲の羽をうちてとれハやうて羽とるうて
柄なうくてさしかざせハ。ちとをいふ。儀式ハ
らてうちくよんて翳よ似たれハ。内翳の義よ名
付るよ。團ハ圓の字をよ義用し。和名よし唐令を
引て團扇方扇といとり方扇よ射をうをうをいへし
ねるよ團扇を音よいの用ハをかしらの方利ハると
のやうようをうをうハ。ねりよりち月のやうをん
ようハとてめつくかんくあるよやうをかくる
ろなり。さうをかるすかうある
ねといとくよくぬるへし

腿 うちあうせ 和名

麗 うるハし

器 うつそりの 和名 のうさるへ

馬杷 うまくそ 和名

御座 おまし

鍬 くそ 和名

桑 くそ 和名

○ 高名 未考 源氏物語 ちくそ

くそやしいくわつこれ

しいつそのちるう

企 くそふ

加 くそふ

曲時 同

鳥頭 くそゆき 和名

委 くハ

蛇 くちなわ 朽縄ヨ似タル ハ名付

闘草 くさあうせ 和名

柔 やハらう

黄耆 やハらくさ 和名

飢 やハ 非代紀

和 やハ 延喜式 云古語

迴 まそる

縫掖 まつりのうへのきぬ 和名 氣 けそひ

不破關 ふそのをき 強飯 こそいひ 和名

撕猴桃 こくそ 又しらく ちわ名

栗 あそ 安房 あそ 古語拾遺 又阿波國

の齋部氏う梅と位くろ瓜の名とゑゆれハ阿

波ゐをゆ又字を出かへてとろてろろ

涙 あそ 万葉 巻二 流齒 あそう 和名 魚名

周章 あわてあハ

つろ時同

髑 あたろこ 和名 阿懼 あそれ

髏 あはき 日本紀并和名抄今集抄抵訳よ

ト部を出るあるいれ出るのよ西のはやあるをきこの

京の陪伝ろあるいれ出るすみろの抑ぱこのの

こあをきこをあわ。りかきあやまてろるやと

考ろるよ下女の大小二女。

芸よあをさろるとあり 渙 あはし

鰒 あそび 交 あそひ

袷　あくせのきれ　和名
顯露　あくハ　あくろ　同
をけふを
いくり
蟛蜞　あくりくる　和名
黄菜　さハやけ　和名　ねぎ菜
味　あちはひ
洗　あくいひ　大和物語
愛甲　あゆく　和名相模國郡名
多　さた　日本紀并万葉古注
澤蘭　さハあらき

又あらまくさ。並和名蘭の字をあらきとよむ
かふちりまにハあくす。蘭葱なり。あくしき

葱といふことよ名付くるなり。葱のわ名ハきしのこいふ
あるよ俗説よこれをしらしめ女なものいひ
出せるそなるへし。ねぎ。けぎ。わぎなどいふ
俗語しき。ハ皆此葱なり。齋文の忌詞の中よ塔をあ
らきといふて九輪のあくりの仰くれハなるへし。
蔓菁なるのくくれを俗語よ塔のくくといふ
くいよあくせて思ふへし。わ名よ葱臺をもくき
くらといくるハ今の俗擬寶珠といふ和名かうふ
せくくの根のよ乃根なり。ひくきハ平葱を扯蒜名
中よ葱ハ別種なくて亟名なれバひくきくきといふを臺
ハ臺を。臺ハ塔乃くくをいくり又擬寶珠ハ葱の春て
なりて。まよそれ乃出まて。用くるよくくれハ。用

蕊（キ）といへるなり

障　さはり

月水　さはり　和名月経あれハ称するなり障あるよ俗よかく名付るなり風雅集よ経脂所称和泉式部よ志めしけいくい清らよ。月のさはりとしるよ世るまつりぬ古事記よ日女武尊尾張国よて炙（ミヤス）養姫のそれのすそよ月水のつきたるを所覚して。ころものすそに月たちよるりとしるよ世

雑多　さはる　和名佐波国郡名

早良　さはら　和名筑前国郡名

痕　きた　和名佐き八つくとゝふ

際　きた　きはのことゝふ河と云同

黄蘗　きはる　皮を剥うれハ黄（キハダ）皮也肌をつぐくとしかくくとゝるのさるぶのこくゝいとそ侵なり

究　きはむ　万葉よハきハくとゝ

鞦韆　ゆさはり　和名

圏象　こづと　日本紀

汀　こきハ　水際（ミギハ）なり

酬　ちはゆ　俗伝未考詳。施早（ハヤ）をほとゝハとゝ通しやとゆと又通してかく

いてりぷよーしとふ塩の味のさーぢ生ぢるをい
つり和名よハ比醸の字をかーしとよめり

塩穴　ちろか　和泉國大鳥郡よりあられハちほは
かとらつへきをを保阿反波ゐれハつく
めてかくいつるりぷ和名よハ久保乃阿奈とあり塩俗
語をちろくといつるをもそれよりつくへし

咳嗽　ちりつき

十二月　万葉　ちろす

宍粟　宍誤作完　ちさと　和名播磨國郡名ちさとあ
つめてかくハらつりぷ俗よハちろのしーいつりぷ宍ち
廃と同訓なれを廃よかれりぷ但馬國朝来郡よ粟

廃郷ありぷ廃ち粟よつくれ
なれハ同一義なるへし

琵琶　びわ

枇杷　びわ

檜皮　ひわ　ちろ俗きハ
ぢよ同一

膝蛸　ひさのかーら
和名俗よいふひさかーらるりぷかちちと
ちろかーら乃ろはぢよ同一かるへし

約　せちくーー
ちてせちくーー
といふなるへし

その字ゐりてちばく
ーーといつへきをちろ俗

諏方　ちちち

蘇枋 すはう　周防 すはう　續日本紀 防作芳

儵 すはやり　和名俗 楚割　洲濱 すはま

登時 すなはち　縄墨 すみなは　和名

中下のう　こゝろ上のわに同し これハ急居をつゝまり殖をとうしとよむかハさる

仮文ハ音にていふなりてハ下にあるべからず 爲瓦

なしと中にあるハまぎれねしと少く出す

此類のくさやかゝけ

痛 いたう　ていたう例しして同

時世粧 いまやうすがた　白氏文集 やうハ様のかななり然をまのかなと

いふことく後に出来たる和語にて

ある訓をとまへしたるなりあらたむ

妹 いもうと　凡せうとおとうとやうのいふにて人なればよわくよくうつくしき位のう

をとめはうにてふよハ

あらずと知べし　縁衫 ろうさう　ろく

さんといふべき縁衫のうち通

してかくいふ六位の袍の名なり

庖丁 はうちやう　葩 はうふる

判官　ほうがん　古今　拍子　はうし　みしやうし

閉人　氏　はうと　角をりとよめるハはたのさなりあらくさハかりそめなりとかりとかりとかりの岩のあらくさ波せハ今の角の我なり

玄蕃寮　ほうしまちのつかさ　和名玄蕃ハ仏と蕃客とをつかさどるなれハ和名あり玄ハ仏法の深玄の義なるのハ衣のうへ丸蕃ハ藩と通す藩屏の我なるよりて日本紀の歌にまかくれしまうきしとあり今の世番の字より伝るなりおほつうちやし

ハ日本紀より伝の字をほうしと訓とせるハ仏の音をもて和訓とせるなりとわ訓とせるハ入あるなれハ漢音ハほう吳音ハほうなれハほうしとかくへうれうとかうしとかくとも伝よりほうふなり又聲をたて額をとんとあれハふの聲はハあるて韵のう伝用るるなり

捧物　ほうもつ　さしけものをかたろよの日記るよかく音よしかさり

陪従　べいじう

豹皮　へうのかは　和名集物名豹の和名おかうかみ日本紀より虎をし狼をし

貴神（カミ）といひつまこハ虎をよりて狼
をたすけて中津神（カミ）といふなり

裸紙 へうし

和名婦人の冠なり。織具ハ勝（チキリ）あり。その
なりにたるりのまて勝冠といふなり

龍膽 つとうたう 和名 林檎 あうこう 和名

えん真赤集るもの也あり。ぢうこ
ん くあるる音なり。ぢん
たうとう
いうり
ぢうハあん
ういうり

夫 をうし

○ 未考 ゐれとかう 和名 樗蒲 かりうち 和名

又云樗蒲采陸詞云樗（音軒加利）樗子、樗蒲采名也
今俗よかりうちうつといふ博奕ハ此物也

括樓 かうすうり 和名 瓜蔞 かうすう 日本紀弁

根し実し芋ゝ瓜
ゝいつきあるう

万糸よかぐりしいつをうくれ通ていふなり
うれよんて万糸ゝ希細（カグミ）しかりぷうしはか
しう河ゝ名細（ナグミ）ゝ山花細（ハナグミ）あ一ぐさ
ゝうあり日本紀ゝ伽愚破志（カグハシ）ゝかれかく

を用ひはをうものゝ心にいつくべきをうくれ通すれ
ハうゝくハいとれれよりてかつりて用ふるもの。
強ていとゝ古代のくちをきくめずして
いつよりてかゝるすハ出来なり

首　かうべ　わゝらとゝ（カウベ）のそなりの分よりてよあ
るれなるもの貴といふ貴
眼して明代をくらくゝなるへし。氣ハ分よりおこて
たゝしきおゝれバなりの分ゝしハおそろき
なりたよゝきハやゝきゝ恐るゝ不なれどかゝ
どゝろるゝいつり貴をかゝゝるむゝ貴をを
ハおそれて
しむかそう

神館　かうだち

上野　かゝつけ　かゝつけをかくいつりかゝとゝ毛野しとかきてかゝつけの下毛野と
かきてかゝつけの下毛野と
那郷村名の名好字を用て二字より作てあつくへき
ゝ和名ゝるよ依て字図ゝ上野の字を加へ上毛
野なゝハ毛の字を省ゝ。わゝよハ上野下野と
かきてかゝつけのゝあるかいゝ
ゝつけのゝ下毛野ゝ
ゝゝうゝ上毛下毛ゝかきて野の字を省ゝまハ
洲あゝゝへきを野を出して毛をくぶゝ
よゝ邪義なり。凡那ハ
ほきハ皆かやう
のゝるへし

寄居子　がうゝ　わゝよハ

かゝるとあり。ぞくとうしいつくる仮なり。ぞつゝ
ほりてハりゐるゝんぞ。まゝハ寄居也。しいゝり

夾纈　かうけつち　和名夾ハ古洽切。入聲。れハ
ろハ俗ようゝ。ようゝ。
夾ハ纈ようゝ仮まり
用を行ふ

冠　かうふり　かゝるゝ
ゝる蓋

被　かうふり　一方ハ分
ゝようあ
くたく
さふすまゝかゝりとゝ
ゝりゝりゝれようおゝ。後漢
ようゝ仮の世ようゝ陀の和生をかゞゝずハあふあゝまり
の月乃嵐やゝれハ拾文ようゝ。ゝの嵐ありて表の裏を
かむとゝりゝをわせとゝ系ゝずハとゝ。縁のゝようゝ

ア。咬をかゞゝしいゝて頭振ゝ。ゝさゝゝを斜ようゝ
振て咬ゝるゝり。本ハ嵐の風を咬ゝより起ゝ。河ゝ。おほ
く八嵐ようゝ
いゝゝり

髪際　かうきゝ　和名
ようかゝぎゝりとゝあるを仮ようてかゝいゝりゝ。ゝ。佛
師乃佛乃ゝゝけ伝いゝ。時かうぎハゝりいゝゝと
定むゝゝゝ。古今莫伝ようゝ。伝陀の伝。時醫師のむ
すめゝ佛師のむすめゝゝ。ゝゝゝ。ようゝ
たゝふれをぬゝゝゝゝ。ゝかゝゝゝようきハよ
物のいてきゝゝをゝんていゝゝゝゝゝゝあゝり

格子　かうゝ　和名云通俗文云簡子竹障名也。
簡音簡字亦作籍。俗用格子二字

籍を晩して拾よるべて用る点かくしといふ
へきことをうくを相通してかうしといふなり

昨夜　ようへ　一万葉ふうハ古伝なり上伝日記の并
六帖よりんへとあるを古伝なり

を殺しきりのことをしるわりぬかくといふハ
への行ことるをとをさんのちをるわり日本紀よハ
昨夜をきすといふ

鉄鉾　たちほうこ　和名

葉ふハきことをあり

鉄鉾ハ姪電二音とあれ
ハたちほハ二音の訛也

畳紙　たくうかし

相似　たうわり　日本紀和伝のやうかすと
いくしくしくれ仰の字

多武峯　たうのみね

のこ
と

日本紀ふ田身とかきてたむとよみ身狭をむ
さとよみるしくしくむ又古通をうるなり多武ふ
たむの山とよみ多武したむなり
をたうどいへるを同韻相通なり

専　たうめ　日本紀并和名しくの古語なり。
又花女をいくり日本紀よたくめとし

あれハたうめハ
うく相通なり

罷　たまのかうあり　和名　羅名

陵王　ねうとう

察　れう　力彫切

陵力
外切

胡瓜　そうり　和名
俗よきうりとゝふ　あらうり　きゝ和名
そうりとゝふ　ゝ和名抄稜をゝのき蕎麥を
そぐむぎ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
名付　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

奏　そうす　子漏切

急居　つきう　日本紀ついあるるりぬとうるの
下まてゝ　ゝ通す　ゝ　ゝ
かき　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
なり　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

仕奉　つかうまつる

内教坊　ないけうはう

中納言　なかなかれりの

殖　う　万葉ゝ　ゝ　ゝ
と出へう　ゝ

陵苔　のせう　和名抄農世宇　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　善
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
の凌霄　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

めき
ふわ
きさし
ちうん 和名さうちうん 八位なり
ほいまうちきさし 和名よハおほまつり しのおほまつきさし
弟 おとうと
黒方 薫名 くろぼう
大臣 おほいまうち
大史 おほいくらう
太政大臣 たほきおほ
意宇 たう 和名出雲国郡名

蝶蟟 くつくぼうし 和名彼うるくあり をりて名とす
美人 ちうと
薫衣香 くんいかう
ちのえかう
しあり
芸 ちさのかう 和名ちさ
八日 やうか 古今
漸 やうやく
司諸 まとまうし 和名的 申なり
客人 まらうと 正 稀人なり ちうゆをよいよ

大夫　まうちぎみ　日本紀

望陀　まうた　和名上総国望陀郡なり。そこにわ出る布を望陀といふ。日本紀に馬来田（うくた）郡ふるまて拔よめりわをうを略

詣　まうづ　までしといふ。万葉ふるまをまゐでとよめり。ぬとうてといふ。通して。まづ。まゐづとはいふる。俗よハ神仏の詣にわ。ゐでまゐをのいふ。ゐでとはいふ。今に月まうでまうでまうにるまあり

儲　まうけ　まけしといふ。俗よあきるひまて利をうるを金をまうるといひぷよの出来るを子をまうるといひて。儲副とて。又儲畜とてたくさん蓄るを金をまうくるハ法を設てたくさん蓄るを子をまうくるハたをまうけの元といふ。蓄をつくへき人出来てそろるを

申　まうす

興　けう

浮線綾　ふせんわう

徼道　こだう　和名小道也（ナリ）徼ハ音叫ぶ。ハ道をよぶこと。こだうとよ名付る。徼の音をて

といひかせるよ

紅梅　こうばい　拾遺集和名

名よるの乃子うはいてうまんとすんとかくをろハをとうとう通よられハるをハといふなりぽまうすをまをとすぐせうバをばををハといふるよ洛〳〵ハうとバいと半へきよりや

後涼殿　こうらうでん

猶人　こまうと　和名小舅

女公　こごうらめ　和名

小姑　をうり

銚子　てうし　銚ハ徒吊反和名さしをべさすをべ倍よるよいてりぽむ篇ハ代昭切とあれハ音えうるりぽ但万ぽよさすをべよ湯ろせことどしとよめりぽ和名よ四聲字苑云銚燒器似鍋鎖而上有鐶也唐韻云鍋鎖鳥肩二音漢語抄云和名同上溫器也とあれハ方ぽよ和名よいてるハかるをよ名ハ同〳〵くておハかををわりぽ猶〳〵てあやまるをれ

手水　てうづ

造果　さうう　和名安義國賀茂郡々名

桐人　さうまん

箏　さうのこと　琴箏ともこれをいふ
きんのこと　さうのこと
ひらくわ
ひらのう

相馬　さうま　和名下野国歌名
さびくしを音仮よ
てかくいつり方ふよ不
○さい名
未考　さうくし
樂しき不怜しきかさてさびくしとあるのこをいつよあるばかりろまのやうよ名
へーづれくとあれハたのーうさおりーろう
ぬ方よ摠をりて別よ名付ふり怜ハ慵を混て通
てかくり音義しきよ
慵のこうよあるーす

菖蒲　さうぶ　和名あやめ

めぞるとかやうよいひな
すハ和名のおるひなり

想夫慵　和名さうふれん

相府蓮なりと
いふ従あり

曹司　ざうし

精進　さうじ

草子　さうし　或た

雙紙しかくり草ハ草案のこと元雙紙ハ俗の暗推
ーてうろう字なるーし或密家の中古の生達の
かくうあよ冊子とありきぞ出たまてえ見しふ
すさうをお通ーていふるりぞれ四字元

薔薇　さうび　十口今集

酒給　さけたうべて

馬道 めだう 和名面堂之道也　馬脳 めなう 和名保音 とめり

御八講 みはかう 講古項切　禨 きやうけ 和名 よし

きやうけといふを常にはかくのごとくかく。同韻にて通ず。さらは下(ゲタ)背(クツ)なり

舅 しうと 和名　姑 しうとめ 和名

祝言 しうげん　祝ハ之六切。音しゆくなるを和通してやはらげていへるなり

蹴鞠 しうきく　蹴ハ千陸反しうくなるをかくいふ。祝言に同じ。和名に蹴鞠を

世間云末利古由と返す。古史ハ蹴の字にあやまれりことごとくまろ通ず。万葉にまろとゆと同韻にて通ずあるかおほし。所泣(ナカル)をなかるゆ。所忘(ワスル)をわするゆとよめり。これはこれハことゆハけりなり。日本紀の皇極天皇紀には蹴鞠のまりを打毬とかきてまりくゆとよめり。くゆとけと通ずれバこれもまりけるなり。神代紀にハよくいふもしく蹴散をくゑはららかすとよみ(ユエ)れハ蹴をすぐにけるとハいへてとうくによめるハ以あるべし。和名に打毬の下に云唐韻云毬 音求打毬内典或謂之打毬師説云万利宇知 毛丸打者也云々又毬杖の下に云辨色立成云骨檛竹花反打毬曲杖也 これまたのぎつちやうといふなり。毛丸とハ鞠なるべし

蹴鞠のかよ別よ出ッ枝をもて打て足をもてけりて毛
丸と鞠とをもしたりひるすし遠つりをもて毬をもてわ
とあるすおほつるもッ毬ハ鞠と同ッ和名よ内典
といそれるハ梵網経ちれるり順のえんれ名本よハ
拍毬とそくるる流布のなまよハ拍毬とあり鞠の下
よ孫愼云今通謂毬子とあれハ毬毬同ッ和名りり

紙老鴟　ちらうし

一云紙鳶いまの世いのぼり世間云師労之以紙爲鴟形乘風能飛
だこるといて紙鳶乃半制なり
史生　ちやう　和名云雜色立成云紙老鴟
二音如賞

日向　ひうう　和名京行紀のそ志ッく日ヲ
向ふ四なれハ日向と名はらむと
いべき紙むとう日韵よて
通されハひううといふるり
帽額　しかう　江次第

物言　ものたうび
まひいるう
夫をえんといひ婦を妹といふて古代なり
ぬをいもの山るとよくてよりて夫
結よ伯といひ仲といふるうこ
とうハ尊の字の音の略元

兄鷹　せう　和名雄鷹の名なり

兄　せうと

消息　せうそく

遙切、遙
翼招切

少納言　すくないのまうし

居　すう　するすゑ
とかすゑ

曜余
照切

小掛子　せうかうご

逍遙　せうえう　逍
思

水精　すいせう

宿曜師　すくえうし

和字正濫鈔巻四終